

# 1. 調査の概要

## 1. 調査の背景と目的

### (1) 背景と目的

阿蘇の草原は、平安時代から続くといわれる牛馬の放牧、採草、野焼きなど人為によって維持されてきたものであるが、その結果、年間 1,900 万人を数える観光客にとって最も人気の高い景観要素となっており、また、大陸系や北方系の特異な動植物を始め多様な野生生物が生育生息する場ともなっている。

しかし、農業形態・生活様式の変化、近年の畜産業の低迷や畜産従事者の高齢化などとともに、草原維持のための一連の作業を行うことが困難となりつつあり、その結果、草原面積の減少・草原の変容が進み、国立公園としての景観の劣化や草原生態系における生物多様性の低下をきたしているのが現状である。

こうした現状を打開するため、環境省では平成 8 年以降、阿蘇地域において草原保全のための検討や試験的事業を進めてきたが、その取り組みは地元の人々や民間企業、関係行政機関等にも波及し、草原の維持・保全に関連するさまざまな動きを生み出してもいる。

一方、平成 15 年 1 月には、自然と共生する社会の実現を目指して衰退しつつある生態系その他の自然環境を取り戻すことを主目的とした自然再生推進法が施行され、これに基づいて、河川、湿原、干潟、里山、森林その他の自然環境を対象に「保全」「再生」「創出」「維持管理」を行う自然再生事業が全国で始まりつつある。

本調査は、このような背景の下、減少・変容が進んでいる阿蘇の草原の維持・保全及び再生を図るため、これまでの取り組みをさらに発展させ自然再生事業として具体化させていくため、平成 15 年度から実施している阿蘇地域自然再生推進計画調査の一環として行ったものである。

阿蘇の草原の保全・再生に向けては、農業との連携が不可欠であるとともに、地域の人々による草原の価値の再認識や、広域的支援も必要である。本調査は、阿蘇草原再生懇談会のもと、「草原管理手法に関する検討」、「草原維持活動支援システムに関する検討」と連携しながら、草原の維持・再生に向けて幅広い情報発信を行うとともに、草原再生に向けた合意形成を進めるための具体的な方策を検討、試行すること、また、自然再生推進計画の策定に向けて、国立公園利用の拠点となる施設整備計画を検討・立案するとともに、各分野別検討結果の調整、関係者の合意形成等を図っていくことを目的として実施した。

### (2) 調査対象地域

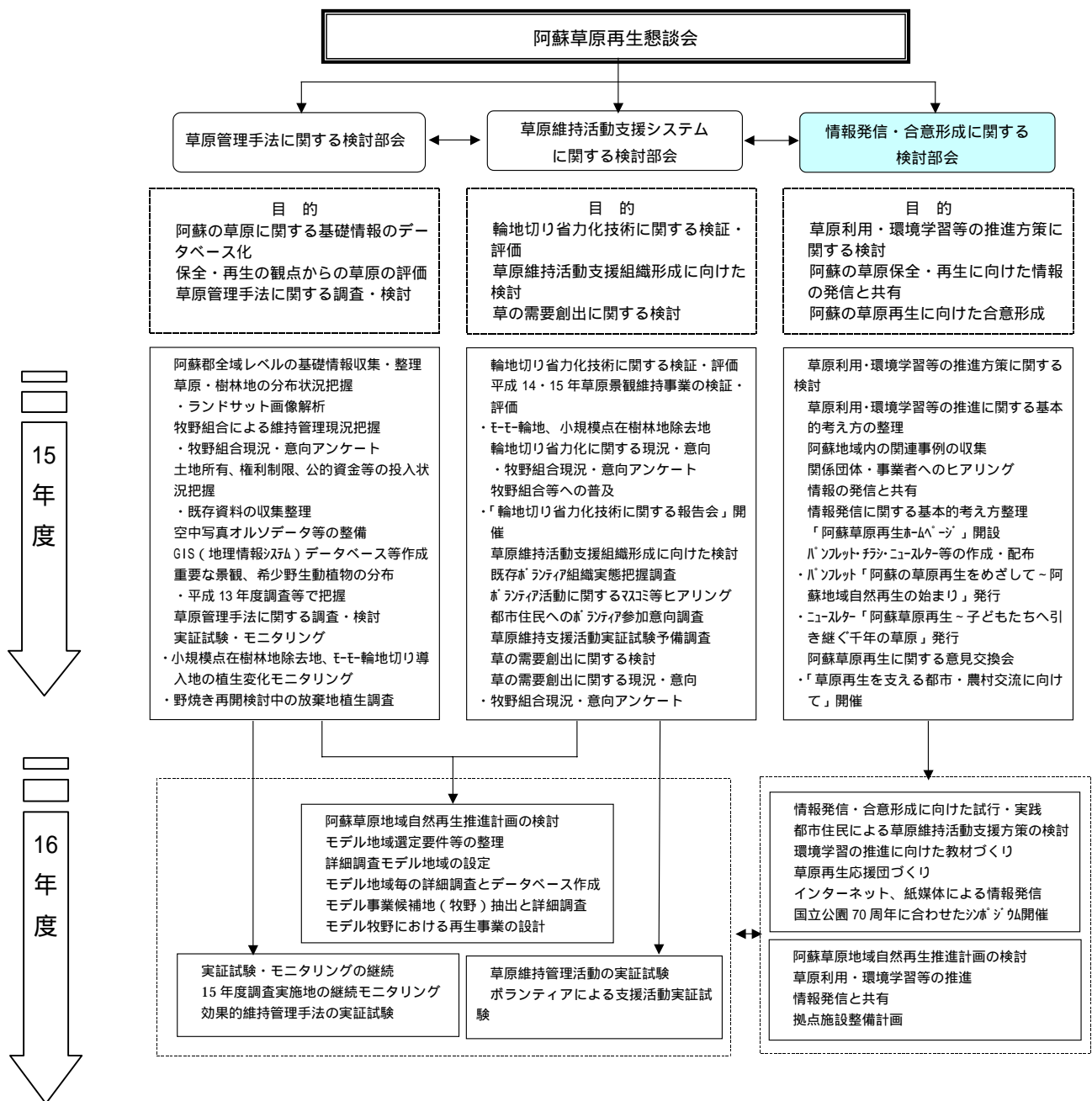
本調査は熊本県阿蘇市（旧一の宮町、旧阿蘇町、旧波野村）、阿蘇郡南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村（旧白水村、旧長陽村、旧久木野村）、西原村、上益城郡山都町（旧蘇陽町）内の、国立公園区域及びその周辺を対象とした。

### (3) 調査の枠組と調査内容

#### 1) 調査・事業の全体像

本業務は平成 15 年度から継続して実施しているもので、昨年度の結果を踏まえ、草原保全・再生に向けた活動を具体的に推進していくことに重点を置き、検討・試行を進めた。

調査にあたっては、草原管理手法に関する検討部会、草原維持活動支援システムに関する検討部会、情報発信・合意形成に関する検討部会を設け、そこで具体的な調査や課題の検討を行い、その成果を踏まえながら、「草原再生懇談会」で計画の基本的な方針、とりまとめなどを行った。このうち本調査・事業は、情報発信・合意形成に関する検討部会に関する調査・事業を実施したものである。

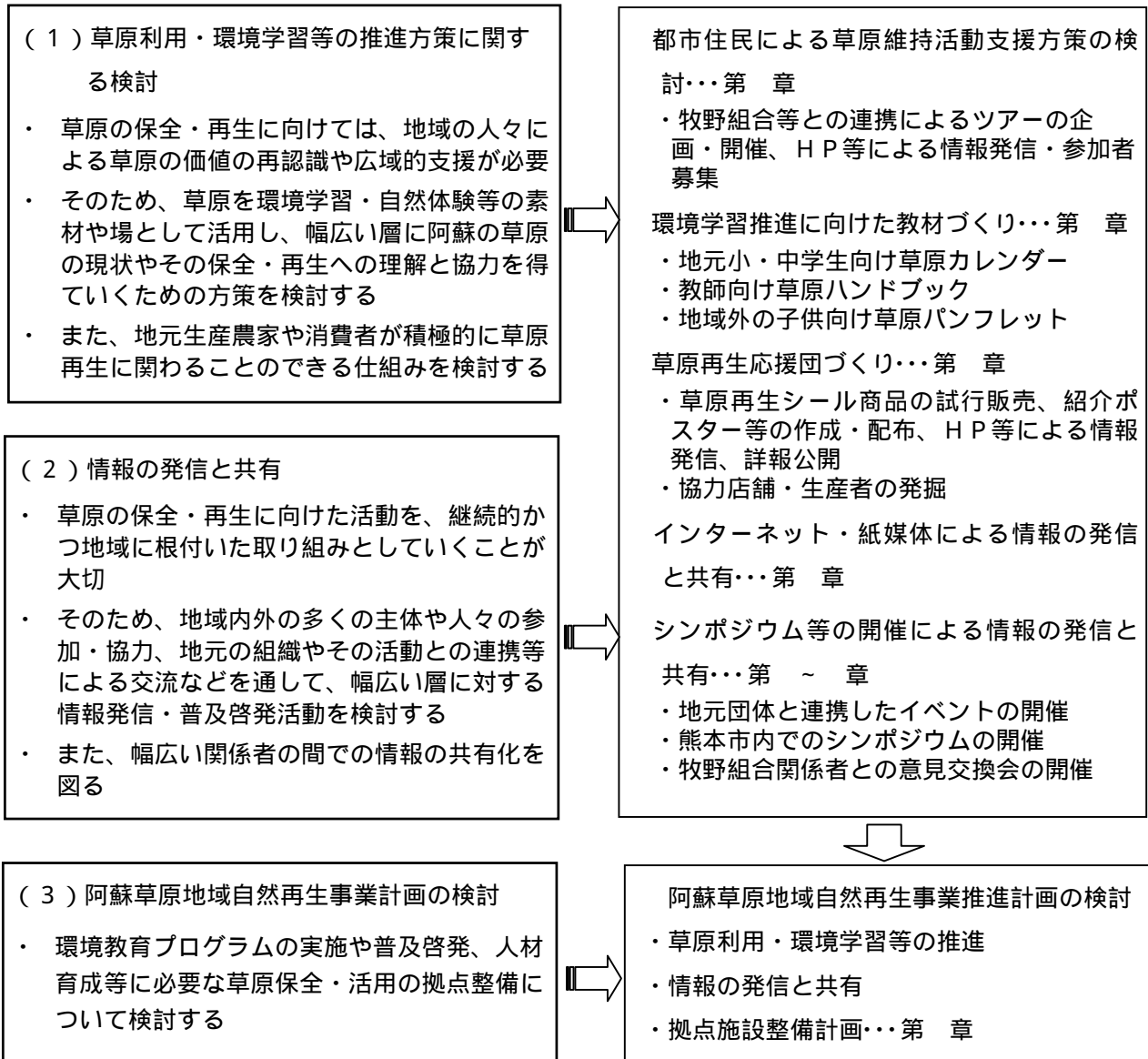


## 2) 情報発信・合意形成に関する検討概要

情報発信・合意形成に関する検討事項として下記(1)～(3)を設定し、具体的な作業内容としては右欄に掲げる調査・事業を行うことによって草原保全・再生への合意形成を進めるものとした。

### (情報発信・合意形成に関する検討事項)

### (平成16年度作業項目)



草原保全・再生への合意形成

### 3) 調査体制

情報発信・合意形成に関する検討にあたっては、草地畜産分野、教育分野、観光分野を中心とした専門家からなる検討部会を設置し、本年度2回の検討部会を開催し、作業の結果を踏まえながら、検討事項について検討を行った。

表I-1 情報発信・合意形成に関する検討部会委員

坂元英俊	財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター事務局長
宮口侗迪	早稲田大学教育学部教授
井 信行	産山村上田尻牧野組合前組合長、阿蘇フォーラム委員長
和田真幸	阿蘇ホテル社長
永田瑞穂	崇城大学講師
本田弘良	農林水産省九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所次長
草野武夫	熊本県阿蘇地域振興局振興調整室長
西山英樹	熊本県阿蘇地域振興局農林部農業振興課長

表I-2 平成16年度 情報発信・合意形成に関する検討の流れ

調査・事業項目	H16年6-7月	8月	9月	10月	11月	12月	H17年1月	2月	3月
都市住民による草原維持活動支援方策の検討・・・本編第 章	・ツアーの枠組の検討、実施可能性についてヒアリング	・8/31 第1回作業部会	・参加者募集開始  10/9-10 町古開牧野	全3回のツアー開催  10/17-18 池の窪牧野  10/23-24 木落牧野	・11/16 第2回作業部会				
環境学習の推進に向けた教材づくり・・・本編第 章	・3種類の教材についての企画案作成				11/19 第1回作業部会の開催 		1/13 第2回作業部会の開催	2/16 第3回作業部会の開催 ・監修作業開始	カレンダー、ハンドブック、パンフレット完成
草原再生応援団づくり・・・本編第 章 		 チラシやアンケートを設置	・シール・チラシ・ポスター・メッセージカード、アンケートの作成 ・協力生産者・直売店の発掘	試行(シール商品の販売、消費者アンケートの実施、協力者へのヒアリング) ・10/31 阿蘇フォーラムまるごとフェスタ「見本市」でのキャンペーン 	・12/19 かたらんね歳末感謝祭キャンペーン	・1/13 シール協力者による座談会の開催 	・2/28「(仮称)生産者の会」準備会の開催 		
インターネット・紙媒体による情報の発信と共有・・・本編第 章	ニュースレター(NL)第3号発行(7月) 草原管理手法に関する実証試験をはじめました / 特集「阿蘇の草原生態系を知ろう」  阿蘇草原再生ホームページの管理・情報更新			NL第4号発行(10月) 第3回阿蘇草原再生懇談会開催 / 特集「採草の継続に向けて実証試験を行っています」 「平成15年度牧野組合調査結果の概要」チラシ作成・配布			NL第5号発行(1月) 阿蘇フォーラムまるごとフェスタに参加 / 特集「阿蘇草原再生への参加の輪を広げていくための事業に取り組んでいます」		NL第6号発行(3月) 調査の一環として実証試験地の野焼きを実施 / 特集「阿蘇草原再生シンポジウムを開催しました」 パンフレット「阿蘇草原地域自然再生推進計画」作成
阿蘇フォーラム・まるごとフェスタへの参加・・・本編第 章				10/30-31 阿蘇フォーラムまるごとフェスタに参加し、阿蘇草原再生をPR 					
阿蘇草原再生シンポジウムの開催・・・本編第 章		・企画骨子を基に、関係者打診開始				・案内チラシの作成 ・地元活動団体への参加呼びかけ	・チラシの配布・参加募集 ・新聞等への広告掲載	2/12 草原再生シンポジウムの開催 	・3/2 熊本日日新聞・シンポ特集記事掲載
牧野組合等意見交換会・・・本編第 章		8/31「阿蘇草原再生と牧野組合調査結果に関する意見交換会」の開催(台風により会は中止し、会合にかえて資料を配布)						2/4「阿蘇草原再生に向けた意見交換会」の開催	
草原景観保全事業(草小積み景観再生事業)				ミルクロード、やまなみハイウェイ、国道265号沿線に草小積みの再現					
阿蘇草原再生懇談会及び検討部会の開催 WA・・・草原管理手法に関する検討部会 WB・・・草原維持活動支援システムの検討部会 WC・・・情報発信・合意形成に関する検討部会		8/3 第3回阿蘇草原再生懇談会開催				12/16 第4回 WA 開催 12/7 第3回 WB 開催 12/20 第3回 WC 開催			3/11 WA・WB 合同開催開催 3/14 第4回 WC 開催 3/18 第4回阿蘇草原再生懇談会開催